

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



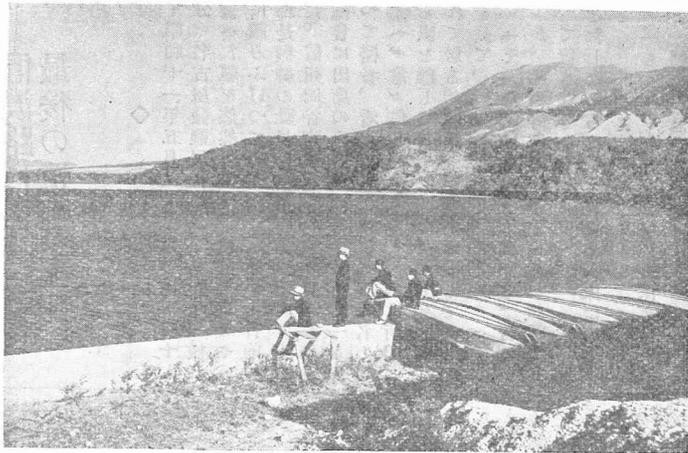
和清山香 校學市田縣野長 會門專上縣野長 所刷印 所發行 所刷印

羊毛工業原料問題

技術者の立場から 藤井爲五郎

濠洲に於ける人絹織物の邦品に對する高率關稅は、英國ランカンアの強敵日本に對する開戦の巨彈であり、日本としては新進羊毛工業への一服の清涼劑である。其間の消息については日々新聞の報ずる處、通商擁護法の發表された今日、多くを語る必要もなからう。

涼味（新鹿澤温泉田代湖） 上田市馬場町三井寫眞館撮影



約九割の原毛を濠洲に求めてゐた本邦羊毛工業が、報復手段の通商擁護法により濠洲よりの原毛を不買する將來を考へ、業者の困迷たる状態は、恰も蠶絲界に於ける絲價暴落にも似たる感、相通する所がある。蠶絲界は滞貨生絲で悩み、羊毛界は原料問題で悩む。之は加工國である本邦羊毛工業の當然考慮し置くべき問題にて、然かも大戦當時は辛い經驗を嘗めた管の業界である。現在になつて悩むは業者として日頃の思慮の足らざりしを裏書するものである。又一方、民衆として、毛織物に對する認識を高める事も大きな必要事項である。毛織物の輸入された當時、絹に對抗せんとし、モスリンに絹様な味を表現させるべくメリノウンの上等原毛を用ひた爲め、日本人は洋服地に對する觀念が、手觸の柔い、光澤のある物を望んで來たが、最近漸く其れに厭きて羊毛の味のある稍粗硬の厚い物を望む傾向を見、羊毛獨特の味かわかつて來た様である。例へばスポーツツクス、セツトランド、スコツク風の背廣地或はホームスパンの進出等が之れである。従つて太番の糸を用ひ必ずしも上等の羊毛のみを用ひる必要もなく、雜種毛使用の必要を感じる事になる。メリノを使用せず雜種毛

を使用する事が今後大きな役割を演じ、解決の一步を示し支那羊毛、滿洲羊毛の前途が囑望される事になるのである。現在あらゆる専門雜誌、新聞に濠洲問題原毛危機解決策として擧げられてゐる處を總合すると、
一、原毛の多方面購入策
一、雜種羊毛の使用
一、再生毛の使用
一、他織維との混紡交織
一、滿鮮及内地に於ける綿羊の飼育の五案が擧げられてゐる様である。原毛の多方面購入策は當然の策で、ドイツの探れる政策を見れば自ら判明するであらう。濠洲以外の國と言へば南阿、ニューギランドが主に擧げられ、南阿羊毛は最近喧しく言はれてゐるが此處と英國の背景を有し、再び第二の濠洲問題を惹起する事が當然と考へられるものである。現今迄蒙古羊毛、支那羊毛を度外視して來た日本は民衆の前述の傾向に依つて雜種毛を要求し従つて蒙古支那羊毛の使用は當然起きて來よう。
滿洲、朝鮮に於ける羊の飼育は相當長年月を要する問題であるが、雜種毛等の使用により有望である。又朝鮮及内地に於けるホームスパンも、夫々の地に飼育する綿羊からとの關係上大きな役割の一つであらう。

然し直接技術者として考ふるべき問題は、一、ボロの再生
一、ステープルファイバー、絹、人絹、綿との交織並びに混紡の二項であらう。
前者は即ちノイル、ナツプ、ショツディムンゴ等にしてノイル、ナツプは日本に於ては年約一千万封度の産出、毛ボロは二百四十五万乃至六百万封度と言はれてゐるが、日本に於ける年原毛使用高二億餘封度に及ぶ故洗上羊毛は歩留り割合として換算し一億三、四千封度なる故少くとも五、六千万封度の毛は集められる筈である。其の紡毛により他國より輸入される原毛との混紡或はファイバーとの混紡による紡毛織の製造、之は現今迄餘り重要視されてゐなかつたが、により

解決の一路が見出される譯である。後者即ちステープル或は絹との混紡も現在産出された製品に就いて見るにステープルとの混紡は三〇—四〇%以内であれば稍理想的の混紡品を見る事がすでに研究され、市場に出でゐる。一〇—二〇%の混紡であれば、餘程の人でないといふ別し得ない迄進歩を見せてゐる。絹との混紡も既に試験されて、昨秋大演習の折群馬縣の小學教員が着用と聞いた。混紡紡サマーが同縣下で製織されたのを見るに勿論改良研究の餘地あるも眞の成果は甚大なるものがあると信ずる。又各地の試験場にて試験されしものも數多く實績を納めてゐる様である。
交織品に到つては人絹は背廣地、セル、子供婦人服に盛んに應用せられ益々羊毛

代用の實を擧げつゝある。ステープル、ファイバーが直に羊毛代用になる如く新聞等に見ゆるもまだ其の主体用途となるは遠く、絹洋服地も可ならんも絹自体單一構成では到底民衆の要望を容れるには羊毛品と大分の差があり、羊毛との混紡、交織の割合増進によつて眞價が發揮せられるものはあるまいか。最後に濠洲よりの羊毛の杜絶せらるるも敢て驚く必要もなからうが、民衆自体が代用品を以て満足し、其の國策を遂行し得べく順應せずんば當初に於て難色を見せねばならぬ事となる。其れ故民衆の羊毛代用品への轉換過程中に於ける我儘を云はぬ覺悟と共に技術者の充分なる研究によつて解決される問題であらう。
（六月十四日記）

現代乾繭機界ノ王座
大和式自動輸送乾繭機

二五九六年代表型

【各種型錄贈呈】

製作發賣元 株式會社 大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地 電話京橋(56)五三二〇番

營業課目
特許大和式自動輸送乾繭機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥機
特許やまご式ホシホシ式
特許サンコー式濾過淨水装置
特許サンコー式廢湯吸器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式機置口

信濃路に於ける 最後の遠藤翁

丹 綾 生

昭和十一年五月二十三日午後零時十七分、名古屋發鹽尻行の二等車内に、瘦せ衰へた軀を悠然と横へ、新聞を食するやうに讀みふけつてゐるのは、僅か十日前に...

市の總會で、畏くも總裁の宮殿下から恩賜賞を授けられたのだが、附添への者達はその席上での万一の不都合を、いたく心配した。翁は「空にして居たら出ないではないか」と、極めて簡単に片づけられた。

松本着午後五時三十分、直ぐに自動車を進んで、淺間の富貴の湯へと急ぐ。室は三階。軀の不自由な翁は、附添人の肩にすがつて、かなりの時間を要した。部屋からは眞白なアルプスが一目に見えた。

六月十五日、社葬も村葬も済んで、地方の人々がありし日の翁をしのんでゐる時、總裁の宮殿下が被褥部を御通過にならざれば、畏くも遺族の者に拜謁仰せつけられて、有りがたい御恩の御言葉を受けたのである。

史汀餘稿

在名古屋 草野史郎

北滿詩行 (其ノ一) 「日本に居ては日本が解らぬ」此の意味から、眞の日本を觀、眞の自己の國の姿を知りたい爲に私は再び漂然...

今度の旅は全くのプライベートで従つて極めてフリーでした。それだけに各方面に亘つて普通人の及ばぬ私獨特の觀察をして詩藪は極めて豊かになりました。

「此の人のみではとても判るまい。それに時間からみても...」私はあきらめて長いプラットホームを歩いてゐると安孫子兄の聲が見えました。固い握手と「ヨ」といっただけで、その瞬間、待合室へ入らうとしたらドアを締めてゐるんです。

「金州城外斜陽」といふ乃木將軍の有名な詩、あの金州で日本軍は機關銃といふものを初めて知つたさうですね。そして大急ぎで作つたさうです。

前置きが大變長くなりました。ではこれから氣の向くまま、筆の走るまにボツリ／＼と書いてみませう。紀行文や旅行記ではありません。感想の隨筆ですからそのおつもりで讀んで頂きます。

「此の人のみではとても判るまい。それに時間からみても...」私はあきらめて長いプラットホームを歩いてゐると安孫子兄の聲が見えました。固い握手と「ヨ」といっただけで、その瞬間、待合室へ入らうとしたらドアを締めてゐるんです。

「此の人のみではとても判るまい。それに時間からみても...」私はあきらめて長いプラットホームを歩いてゐると安孫子兄の聲が見えました。固い握手と「ヨ」といっただけで、その瞬間、待合室へ入らうとしたらドアを締めてゐるんです。

「此の人のみではとても判るまい。それに時間からみても...」私はあきらめて長いプラットホームを歩いてゐると安孫子兄の聲が見えました。固い握手と「ヨ」といっただけで、その瞬間、待合室へ入らうとしたらドアを締めてゐるんです。

上田便り

織物生産高 上田小縣織物一市二郡五月中織物生産高は絹織物二千七百六十三點三万四千七百七十七點九百五十四圓計五千七百九十二點三万九千九百五十七圓前年同月比五百八十三點減じ百十四圓を増した。之は生絹の重目物が需要旺んだつた爲めである。

管平青年講習所増築 管平青年講習所は一万四千圓の豫算で増築する事となり六月十日着工したが七月下旬竣工の豫定である。増築箇所は職員官舎二棟、堆肥舎一棟、收納舎一棟、水道設備、講師室等であるが更にスキー學校開設計畫遂行の爲め床下壁天井の防塵施設、窓及出入口の改造、浴槽建設を行ふ意向である云ふ。

五校水泳大會 長野工業、長野師範、屋代中學、野澤中學、上田中學の第十回五校水上競技定期戦は六月十四日上中諏訪形プールに舉行、當日は一點の曇なき眞夏の如き好天氣に恵まれ十一種目に互り大熱戦の結果上中六四、五點を獲得して優勝以下長師五〇、長四八、野中四四、五、屋中三三の順であつた。

揮毫の爲め統（幅一尺二寸長さ二尺五寸位）四枚お預り置き候處依頼者名失念致し候に付き御心當りの方は何卒御申出で被下度候

針塚 長太郎

蠶絲學雜誌(九卷一號)原稿募集

好景氣蠶絲業を目前に實際家も研究者も夫々の立場に於て收穫時に大童の事と拜察致します。執近々蠶絲學雜誌九卷一號を發行いたし度いと準備中です。就きまして是非共諸賢の玉稿を頂き度い次第です。長い論文でなくとも結構です。調査、資料、抄録等大歓迎です。原稿用紙は御一報次第御送りします。

締切 七月末日
發行 八月下旬

蠶絲學雜誌編輯係

控へた縣下養蠶家の収入見込につき縣蠶絲課にては調査中であるが縣調査に依る十一年度春繭豫想收穫高は六月十五日現在にて桑園の寒冷害等に依り前年の三百九十一万三千六百二十圓に比し白繭二百九十一万六千五百五十七圓、黃繭四十二万四千六百十圓前年比五十七万七千七百七十七圓、一割四分八厘の減であるが、繭價は本縣では五圓二十錢平均となつてゐるので金額は増加し昨年の収入一千三百六十二萬圓に比し一千七百圓程度となり四百萬圓からの増収を期待されてゐる。又夏蠶も同様の高値を豫想され掛立は七月八日から十五日頃に行はれる見込であるが、春繭の好景氣に煽られた養蠶家は早くも掛立増加の氣構へをなして來た。然し桑不足は全縣下に及んでゐるので縣蠶絲課では一時の景氣に幻惑され掛立増加をなさざる様警告してゐる。

新興キネマのロケ 新興キネマ監督田中重雄及スター伏見信子、河津清三郎、田中春男外十餘名は小島政二郎原作報知新聞連載「薔薇なれば」のロケーションの爲め六月十五日來田滞在三日間の豫定で別所、田澤等の温泉街の情緒を描へて撮影した。

白根山眞田間ケール建設 草津硫黄株式会社では硫黄運搬の爲め白根山腹より上田温泉眞田間二哩のケールを工費六十萬圓を以て建設する事を六月十六日の總會で可決したが從來はトラックに依り澁川に出し省線で新潟へ輸送してゐたものであるが、之をケールにて眞田に出し直ちに温泉より省線に至り新潟に出そうとするものである。之れに依つて噸當り二圓以上の利益があると云ふ。

然して上田温泉では商工會議所と協力し硫黄輸送の歸り空車に上田の物資を積込み草津温泉に供給せんと計畫を進めてゐる。

原繭種好成绩 上田蠶試支場の本年度原繭種は六月十七日を以つて二千噸分が上築完了するが新品種日八、支一七、歐一九、日一一、支一〇七は何れも成績良好で就中日八、歐一九兩品種は弱質性の上に三四齡期に低溫と桑の軟弱の爲め可成懸念されたが上築成績は良好であつた。上築経過は二十日十三日支一〇七、一七、安泰、支一六、十四日支一〇七、日一七、十五日支一〇七、歐一九、十七日支一〇七、支一六、支一〇七に完全上築する豫定である。

坂城繭絲初取引 本縣下のトップを切つて六月二十日開始された坂城繭絲の初取引は高値五圓三十錢、安値四圓五十五錢、平均五圓七錢、掛日三十七半であつた。

ハイヤー割値上 上小自動車業組合ではガソリン及びタイヤ値上げに伴ひ賃金改正を行つたが大體一割の値上げで二十日から實施した。尙市内五十錢均一は從來の儘である。主なる區間は左の如くである。(何れも上田から)

從來	改正
別所 一圓八十錢	二圓
田澤 二圓	二圓二十錢
青木 一圓六十錢	一圓八十錢
新鹿澤四圓五十錢	四圓八十錢
管平 三圓五十錢	不變
彌津 二圓	二圓二十錢

暑さ眞夏以上 上田地方は六月廿二日朝來快晴で寒暖計はグン／＼上昇し蠶試上田支場の調査に依れば最高溫度は午後三時で廿五度八分(華氏九十六度)を示し前年同日の廿四度三分に比すれば十一度五分(華氏二十度)も高く眞夏にも餘りない暑さに何れも驚いてゐる。

養蠶家が待望の信濃、上田兩繭絲市場の初取引は六月廿二日(昨年は上田繭絲十九日、信濃繭絲廿日)一齊に開始したが取引状況は左の如くで昨年より一圓以上の高値を示し養蠶家を狂喜せしめた。(括弧内は昨年)

最高	最低	平均	掛日
五圓八十一錢(四圓三十二錢)	四圓八十八錢(三圓三十五錢)	五圓三十二錢(三圓八十七錢)	三九
三九	三九	三九	三九
最高 五圓六十九錢(四圓四十五錢)	最低 四圓十錢 (三圓三錢)	平均 五圓三十三錢(三圓九十三錢)	掛日 三九
出廻 一三五九貫 (八四七貫)			

上小地方蠶況 蠶取上田支所調査に依る上小地方六月廿五日現在春蠶狀況は桑は早天續きて伸長が止り降雨を待つ状態桑葉價格は一時百貫目廿六、七圓に暴騰し其後二十圓に下落したが夏蠶に振向け得るのも又廿五、六圓に騰り山間部は桑不足を見たが全般的には過不足無く蠶兒は大並は收購販賣中出盛期は廿七八日頃運搬きは五、六日で新品種日八×支一〇七は一部に運搬があつたが全般的には良好で蠶組は更に嚴重なる驅除新築も空しく最近に至り發生多く昨年より被害多き見込で憂へられてゐる。夏秋蠶掃立は上田は前年の五万三千六百餘グラムと大差なく小縣は前年百十四万四千九百餘グラムより稍減少の見込である。

上小地方の春繭爭奪戦 上小地方の春繭爭奪戦は出盛期になつて愈々尖鋭化し繭絲市場側は大製絲家に依り各方面に振廻された特約取引網を打破らうと加盟養蠶實行組合の幹部へ巧妙な手段で働き掛け特約大製絲家は市場高値の場合解約の惧れがあるので市場での積極的買入方針を避け特約の確保に躍起となり、共同

處理に乗出した浦里、青木等の各村に購繭員を派遣して物々しい仕入陣を敷く一方町村産業組合は生繭共同販賣の輪旋に續々手を染め來つたので蠶業取締所上田支所では見本取引を避けしめ取引の公正を期し嚴重監視中である。

鐘紡上田工場引込線完成 上田驛より鐘紡上田工場に至る鐵道引込線は兼ねて工事中の處此程完成したので廿五日鐵道省で機關車の試運転を行つた。然して工場建築工事は七月の株主總會に報告を行つて直ちに取掛る段取りで人絹交織の既定計畫の外毛織人造織機織工場設置も目論見がなされ管平に於て綿羊飼育も計畫されてゐる。

美ヶ原園圃三割引 丸子鐵道會社にては六月廿五日より九月末日迄に美ヶ原行團體五人以上には同社線各驛より三割引を行ふ事に決定した。

管平道改修 小縣郡長村縣道土合管平線改修工事の内管平部落入口から管平ホテル迄二百間幅員三間の工事は近く着工する事に決定之が完成すれば冬期間と雖も管平迄バスが運轉され大體に於て交通が完備するのである。

稚蠶共同飼育場設置 十一年度稚蠶共同飼育場設置は縣蠶業課で申請し組合につき嚴選の結果五ヶ所に設置と決定、計六千七百五十圓の奨勵金を交付する事となつたが上小關係は中野田村中野第一養蠶實行組合、滋野村井子養蠶實行組合の二個所で敷地は各百坪の豫定で近く建築開始される筈である。

天神町裏の縣道九月から着工 上田橋を北へ直行南天神町裏を通り鐵道ガードを経て祝町から舊松尾町交番に出る新設縣道は市工務課が最近設計を行つて縣へ報告したが着工は九月頃の豫定である。總工費十七萬圓、總延長七百米中南天神裏通り四百四十米は幅員八間、祝町通り二百六十米は幅員十間の三ヶ年繼續工事とし本年度は支障物なき南天神裏鐵道附近施行の豫定である。

養蠶科第二學年校外實習先及學生氏名

Table with columns: 所在地 (Location), 實習場所 (Practical Place), 開習月日 (Start Date), 學生氏名 (Student Name). Lists various locations and student names for the silkworm rearing course.

製絲科第二學年校外實習先及學生氏名

Table with columns: 所在地 (Location), 實習場所 (Practical Place), 開習月日 (Start Date), 學生氏名 (Student Name). Lists various locations and student names for the silk rearing course.

教婦養成科第二學年校外實習先及生徒氏名

Table with columns: 所在地 (Location), 工場名 (Factory Name), 生徒氏名 (Student Name). Lists various locations, factory names, and student names for the women's training course.

Table with columns: 所在地 (Location), 工場名 (Factory Name), 生徒氏名 (Student Name). Lists various locations, factory names, and student names for the women's training course.

本會記事

本會日誌

六月十一日 日本蠶絲學會講演集到着に付學會へ禮狀發送す。六月十二日 理事會開會千曲時報を新聞紙法に依り發行の件外數件協議せり。六月十七日 豫約せられし各位に對し兩學會の講演集發送す。六月三十日 天龍社火災に付見舞電報發送す。日 故高山裕、故佐藤壽雄兩氏

會費領收 (六月五日)

- 昭和十一年度通常會費納入者 (印は蠶絲學會雜誌代共) 佐谷戸健次郎(蠶一) 鶴田定平(蠶一) 松野正一(蠶一) 高須 兵司(蠶一) 奥田達雄(蠶一) 花岡 作彌(蠶一) 折茂正太郎(蠶一) 朝長 勝治(蠶一) 黒江文雄(蠶一) 戸倉 八峰(蠶一) 坂田榮雄(蠶一) 小川 正保(蠶一) 中山鐵一(蠶一) 久保田 勝也(蠶一) 弓田 弘(蠶一) 栗原 章(蠶一) 糟谷三郎(蠶一) 上林多兵衛(蠶一) 橋本武光(蠶一) 上林多兵衛(蠶一) 久保田昌人(蠶一) 山本岩三郎(蠶一) 桑田庄七(蠶一) 永田 平(蠶一) 根岸丑之助(蠶一) 宮崎清治(蠶一) 二木猪一(蠶一) 中川 博司(蠶一) 大高 雄三(蠶一) 田口富五郎(蠶一) 原田 種徳(蠶一) 宇田 虎一郎(蠶一) 小澤則一(蠶一) 古川 俊之(蠶一) 門田秀太郎(蠶一) 水城 孝男(蠶一) 北島正生(蠶一) 大谷内三衛(蠶一) 丸山十吉(蠶一) 宮城 博(蠶一) 今村良郷(蠶一) 内田訓之亮(蠶一) 三輪貞徳(蠶一) 古越 光明(蠶一) 竹内善吾(蠶一) 鈴木 英夫(蠶一) 山崎 壽(蠶一) 鈴木 次夫(蠶一) 小山恵治(蠶一) 山本 誠(蠶一) 西本朝平(蠶一) 新井字之輔(蠶一) 小林重男(蠶一) 岡崎 勘助(蠶一) 熊谷恒次(蠶一) 向坂 朋二(蠶一) 池田篤治(蠶一) 藤本 衛佐雄(蠶一) 北澤孝一(蠶一) 瀧口 昇(蠶一) 關 順一(蠶一) 瀧口 昇(蠶一) 北條五郎右衛門(蠶一) 田村亮(蠶一) 早乙女徳藏(蠶一) 永井眞吉(蠶一) 高瀬毅一(蠶一) 市川 龍哉(蠶一) 古川正喜(蠶一) 坂口 正信(蠶一)

支會通信

水野支會長を送るの記

の御遺族に對し有志形慰金贈呈す。七月一日 養蠶科第一學年學生見學旅行のため松本市へ出張に付安筑支會長へ禮狀發送す。 糸育の千曲會員は現在五名にして時々例會を開いて學生々活の事や、工場生活の思ひ出、ゴルフの自慢話、さてはあちとこちらの女性の比較優劣論等々話は

泉の縁に止る度なく賑々しい糸育生活を暫し忘れて楽しい談笑の裡に時を過すのが當である。 今回支會長水野健吉氏は故國に榮轉歸朝せらるゝに付き四月十日一同市内太陽亭に於て、送別晩餐會を開き併せて役員の改選を行つた。 新支會長 有賀 康人氏 副支會長 若林 清氏 此に當支會の面々のプロフィールを述べると 水野健吉氏(第二回(三井物産)) 米岡仕込のスマートなジェントルマン

- 若林 榮(蠶九) 堀田 隆(蠶九) 外史(蠶九) 松野 功(蠶九) 岡本 正男(蠶九) 香掛久雄(蠶九) 遠山 正人(蠶九) 吉田太郎(蠶九) 山崎 勝巳(蠶九) 潮富正廣(蠶九) 山崎 光治(蠶九) 石原清州夫(蠶九) 林 運治(蠶九) 中島正喜(蠶九) 鈴木 正悟(蠶九) 秋山俊雄(蠶九) 新野元 治郎(蠶九) 牧島章吾(蠶九) 青木 茂樹(蠶九) 岡島龜治(蠶九) 藤井 宗深(蠶九) 小川 敏(蠶九) 藤井 三郎(蠶九) 渡邊善次(蠶九) 田中一男(蠶九) 田中 一志(蠶九) 土岐宣治(蠶九) 高橋政平(蠶九) 鈴木泰市(蠶九) 高橋三郎(蠶九) 橋本景吉(蠶九) 伊藤 三平(蠶九) 橋本保定(蠶九) 高橋 安雄(蠶九) 栗原良芳(蠶九) 尾澤敏男(蠶九) 有賀 茂(蠶九) 猪原良作(蠶九) 飯田儀作(蠶九) 村島 徹(蠶九) 渡部 巨(蠶九) 宮本和夫(蠶九) 甲田勝衛(蠶九) 飯島 輝雄(蠶九) 梅澤方治郎(蠶九) 石塚浪之助(蠶九) 北村中太郎(蠶九) 飯島 教吾(蠶九) 小宮山太郎(蠶九) 鈴木 督造(蠶九) 尾澤重藏(蠶九) 島倉 重敬(蠶九) 大塚重藏(蠶九) 湯澤 重雄(蠶九) 小山俊吾(蠶九) 清水 恒川(蠶九) 小山雅夫(蠶九) 石濱 芳保(蠶九) 荒井 猛(蠶九) 牧野 弘(蠶九) 新庄哲二郎(蠶九) 山本奈良三郎(蠶九) 柳澤忠次(蠶九) 和木 晋(蠶九) 石井謙三(蠶九) 高橋萬三郎(蠶九) 岩根恒徳(蠶九) 高橋 誠(蠶九) 相澤伸司(蠶九) 村田 階宣(蠶九) 山田茂忠太(蠶九) 手塚 政吉(蠶九) 土岐茂次(蠶九) 野尻 啓一(蠶九) 小口兼男(蠶九) 野尻 白二(蠶九) 五島小太郎(蠶九) 長谷川洋治(蠶九) 笠島金治郎(蠶九) 栗野慎一郎(蠶九) 田尻恒治(蠶九) 矢島隆之助(蠶九)

- 望月太一(蠶七) 石井 公男(蠶七) 磯部英一(蠶七) 太田 良信(蠶七) 伴野徳仁(蠶七) 高須 正高(蠶七) 岡倉美義(蠶七) 佐藤 東平(蠶七) 小林清志(蠶七) 宮島 靜三(蠶七) 小島喜藏(蠶七) 宮原 達郎(蠶七) 鈴木玄九(蠶七) 林 清市(蠶七) 下村忠一(蠶七) 宮原 秀人(蠶七) 林 秀門(蠶七) 梅村 義一(蠶七) 大木定雄(蠶七) 丸山 勳(蠶七) 山本金之助(蠶七) 松村 恵一(蠶七) 平野正夫(蠶七) 宮下文四郎(蠶七) 長谷川恒三(蠶七) 白井 四良(蠶七) 北澤常雄(蠶七) 坂田 長治(蠶七) 牛草英喜(蠶七) 坂田 長治(蠶七) 有賀 茂(蠶七) 横内 豊彦(蠶七) 尾澤敏男(蠶七) 横内 豊彦(蠶七) 猪原良作(蠶七) 山口悠紀男(蠶七) 飯田儀作(蠶七) 山口 新太郎(蠶七) 村島 徹(蠶七) 宮本和夫(蠶七) 市村 信雄(蠶七) 佐久間幸一(蠶七) 鈴木 一郎(蠶七) 小林忠十郎(蠶七) 村橋 決(蠶七) 村橋 決(蠶七) 岡部 康之(蠶四) 岡部 彌市(蠶三) 未納會費金四圓也 村橋 決(蠶七) 未納會費金四圓也 村橋 決(蠶七) 千曲會規則第九條第一項中第三號ニヨル 未納入會費納入者 金五圓也 大井 學(蠶四) 小山 二郎(蠶六) 小林 勳(蠶六) 野本治兵衛(蠶六) 石坂虎治郎(蠶六) 都筑 賢吉(蠶四) 原 英三(蠶六) 手塚 雄一(蠶六) 入會金納入者 金拾圓也 宮島 四郎(蠶七) 金五圓也 清水 傳(蠶七) 渡邊 善次(蠶七) 土屋 勉(蠶七)

で趣味の廣い人、ステツテイなゴルフファとしての定評あり、トナメント毎に必ず何等賞かありついで居る。「朝鮮の國歌」は滅多に聞かぬ秘蔵の唄、カラタチの花」は藤原義江を凌ぐと自他共に許す氏の得意のもので、氏の咽喉から軽快に流れる「雨の降らぬに草平田川濁る……」は氏の近邊を常に朗らかにして居る。 有賀康人氏(第十四回(片倉製絲)) 紅顔の美青年で、渡米して既に三十路に入つた獨身者(彼氏)日本式に數へてだよ」と強調して居る。去年から歸る」と云ふので餘りの用意して居たが未だに仲々歸らない。プロに近いゴルフの名手、洋樂に詳しく名レコードの蒐集に餘念がない。色の黒い方での第一人者だが仲々の親切者。何時もビツタリとしたスタイルが好きで左も相當に利く。殊に洋酒に於て然り。近く歸朝の豫定。 若林清氏(第十五回(三井物産)) 支那から紅育(来たその道の遠者な人) 外系内硬のタイプで、いともきちんとした禮儀正しきジェントルマン、口に言ふ前に實行第一を旨とし社交振りは仲々堂に入つたもの。最近ゴルフがよく當るらしい。飲む方も相當に強い。 矢野榮輝氏(第十七回(片倉製絲)) 渡米早々カッパを獲得した名ゴルフファ。最近ムービーカメラに興味をもつてゴルフと両方掛けて歩き廻つてゐる。寡言になるが必ず頻りに飛び出す氏の癖やかな語は伊那節と共に好評。チビリと傾く盃は相手さへあれば何時迄も續く相當のものらしい。 馬場武氏(第十八回(片倉製絲)) 以上の古強者に伍して最新参者、日本からの洋服がダブダブで困りつゝ着て居る。新参者丈に失敗談が澤山あるらしい。最も運動量の多いゴルフファ。ウルサイ紐育でも床に入れば直ぐ眠れると云ふ丈に相當に太い神經の持主。呑めばすぐ赤くなるも環境に鍛へられて段々強くなつて来たらしい。 各方面に亘る數々の珍談は美妓の侍らぬこちらの宴會でも大した淋しきを感じず水野さんの歌ひ納めを幾つも聞き日本レコードに故郷の山野に思を走らせお互に「日本はいいな」と強く感じつゝ一同和氣瀟々裡に歡を盡して散會したの御健康と御幸福とを祈つて散會したのはまだ冷たさとした春の夜十一時過ぎであつた。尚水野氏は四月廿日、桑港出帆の秩父丸にて歸朝の途に就く豫定なりしもの後歐洲經由に突然變更、多分深縁すが、しい夏頃日本に着かるゝであらう。(馬場記)



池も商が立たない。ゴルフは日本では一般的なではないがこちらでは極く手軽であるから最もポピュラーなスポーツで若男女何れもやつて居り、在留邦人にとつても經濟的であり近保健全必要なスポーツである。従つて近代文明の粹を集めた紐育に住む吾々が背白のスマートな紳士振りを想像されてる内地の諸兄には吾々のこの頑健振りに恐らく一驚の事と思ふ。 昨秋歐洲より歸朝の途御立寄になつた古谷先生を御迎へして座談會を開いた時先生曰く「歐洲から紅育に來て先づ第一に魂消た事は建物は高いがフランスの様な優美な裝飾が少しもなく恰も慕標の間に居る様な氣がする事と諸君何れも餘りに眞黒に陽に焼けて居る事である」と。平常物に驚かれない事と有名な先生が一驚された程である。 各方面に亘る數々の珍談は美妓の侍らぬこちらの宴會でも大した淋しきを感じず水野さんの歌ひ納めを幾つも聞き日本レコードに故郷の山野に思を走らせお互に「日本はいいな」と強く感じつゝ一同和氣瀟々裡に歡を盡して散會したの御健康と御幸福とを祈つて散會したのはまだ冷たさとした春の夜十一時過ぎであつた。尚水野氏は四月廿日、桑港出帆の秩父丸にて歸朝の途に就く豫定なりしもの後歐洲經由に突然變更、多分深縁すが、しい夏頃日本に着かるゝであらう。(馬場記)

諏訪通信

市制を布いた岡谷の祝賀が大日本蠶絲會總會と一緒になつたために、當地稀に見る賑ひを呈した。五月二十三日から二十五日の三日間は全く市の誕生を祝し其の前途の多幸を祈るかに見えた。晝は旗の海、夜は灯の海、其の間を小止みなく練り廻る幾多の出し物にて、狭い街故に通行も出来ぬ雑沓の連続であつた。

更に特記すべきは開院宮殿下を迎へ奉り市民はもとより郡民一同其の光榮に浴し感激に浸ることが出来た。尙又絹業展覽會の開催により絲の都の名に相應しく蠶絲業方面の認識を一般に深く與へたことは何よりの收穫であつたと思はれる。

斯かる記念すべき機会に吾々は母校より校長先生、遠藤先生、林先生を迎へ支會春季總會を計畫し、各地客員諸兄の御参加を得て實に盛大且つ意義ある會合を終ることが出来た。五月二十五日午後七時上諏訪町關樓に於て開會され、翌の如く會務報告、基金造成の經過並に新會員の

若く卒業生の返書

石倉新十郎

拜復貴書拜見、御厚意有難く存上候。世情は眞に仰せの通り萬々推察いたし候景氣不景氣は世の流れ、どこからともなく流れ来り、又どう云ふ譯も知らず流れて去る。其の結果は人間にあつて、破産したるもの衰頹したものがあり、又財産を造つたもの増殖したものがある。其所に悲觀樂觀があり、悲喜劇が現實に演ぜられるのである。

然し終日働いて其日々を暮らして居られる兄弟には世の景氣は殆ど没交渉にあり得るのである。そして其所には勞勞と自己慰安とがあるであらう。自己慰安の途を知らぬ人は酒に藉り女に倦り自己疲莫から逃避をなす。そして心に確るものはたゞ淡い夢の如き追憶のみである。機械据附で毎日非常に多忙である様子骨片の如き鐵を磨いたり、其れを取附けたり、其所には少しの反響もなく何等の表顯も見付からないであらう。打てばカ

紹介ありて後三輪會長辭任に伴ふ後任選擧をなし今非副會長長格當選、又副會長には鹽原君當選さる。次に宴に移り會長挨拶の後校長先生より主賓を代表されて御挨拶に兼ねて訓示を頂き非常時に處する吾等の最も感銘するところであつた。久し振りにて父母の許に歸りたる心持にて諸先生を中心として、昔を語り現在を話し合ひ、酒量増すに及び或は踊り歌ひ或は吟じて特に高調に達するや一同記念の撮影をなし童顔と美妓の得難き情景も瞬時にして消え去り、爆笑と明朗は際限なく續く。やがて校長先生の万歳に次ぐ支會の万歳を唱和し名残り惜しくも幕を閉づ。

翌二十六日は三先生を支會有志にて蠶絲學校、増澤商店に御案内し、特に蠶絲學校に於ては、若人の胸に深き感激と勇氣を與ふる御講演を戴き、一同深く感謝に満たされた。午後二時三先生を御送り致し益々御健勝の程を心より祈る。尙終りに御參會の客員各位に對し御禮申

と響けど其れは音楽ならぬ静物の聲である。巻尺とレベルとで丹念に其れを組立てる兄の頭腦には隙間がなく、筋肉の躍動はリズムを爲して居る。其の努力の著積は即ち完成の機械である。電動機一度唸りを發して動き出せば、見よ白雪の精細は整然として伸長せられ、繊細の糸は喜悦に舞ふ如く、飛出で木管に巻き附いて行く。其れはさながらステージの舞踏ではないか。

斯くして終に静物化して生物となつたのである。其の生命は即ち兄の生命であり、糸は兄の生む愛兒である。其の市場に於ける價格は兄の自己慰安に對して問題ではない。糸は兄の見知らぬ誰かの衣服となるであらう。天の微笑は其所に含まれて居り、そして又表はれて居るのである。此所に氣附かぬ人達には眞の勞働神聖の意義のわかる筈がない。兄の流す汗は世の感謝の涙であり、兄よりすれば世を救ふ深き情の涙である。我が蠶專が蠶專健兒、夫れ勇闘せよ、そしてまた自愛せよ。不

上ぐると同時に不行届きの點を謝し益々御健勝を祈る次第である。更に參會者名を記し閉巻す。

- 主賓 針塚校長先生、遠藤先生、林先生
横濱 宮入君
上田 齋藤君、永田君、猪坂君
篠ノ井 依田君
松本 久保田君、野尻君
支會員 今井君、鹽原君、中川君、石塚君、石川君、本山君、原田君、金野君、手塚君、村田君、御子柴君、土岐君、渡邊君、宮坂君、島倉(惣)君、關君、小澤君、角替君、小口(兼)君、後明君、渡邊(綱)君、宮坂(三)君、横山君、山浦君、香掛君、秋山君

東京千曲會昭和一十一年度總會
一期日會場
自昭和十一年五月三十日午後三時於蠶絲會館
一、議事
會務及會計報告の件
原田會長より開會の辭あり。續いて内藤幹事より昭和十一年度に於ける會務及會計に付詳細に報告あり。特に本會よりの會費収入少く爲に會計の鹽梅極めて困難なるは會員中に同窓會費不納の者あるに依る點を力説し之が拂込の勸奨あり。最後に會計承認に入り萬場一致可決。

一、會務用電話架設の件
内藤幹事より昨年の代議員會に於て會務用電話一箇架設する場合は其の架設費を本會に於て負擔することに可決せる旨の本議題提出理由の説明あり。是れが處置に付審議せし處種々の案出でたるも結局東京は人事其の他總てに於て本會に勝るとも劣らざる重要な地位にあるを以て一箇にては不足なる故二箇架設し、其の架設費及經營費は總て本會に於て負擔するに至當なる故右來る代議員會に於て極力主張し其の實現を期する事に萬場一致可決。

八、役員改選の件
正、副會長は原田會長指名に依る監考委員(野崎、小平、永井、南澤、小林の諸氏)の嚴監の上、又代議員及幹事は新會長の指名に依り左の如く決定せり。

- 會長 上野榮仁
副會長 高島秀男
代議員 田中福雄、久保田昌人、南澤 浩
幹事 宮澤勇、永井勝未、菅澤隆三、田中福雄、栗原章、中島 暹
以上にて議事終了、新會長上野榮仁氏より就任挨拶あり。終つて蠶絲會館食堂に於て盛大なる晩餐會を舉行新入會員の挨拶、自己紹介等を経て午後七時盛會裡に散會せり。(中島記)

計報
弔慰金報告
故林太郎氏弔慰金第三回
金貳圓也 原田 親雄 中村治三郎
渡部 齊 飯田 儀作 高品喜一郎
金壹圓也 町田 志敏 中野 六郎
島倉惣次郎 坂入 長治 佐藤 一
渡野 文雄 石原滿洲夫 三輪 貞徳
堀 忠太郎
右合計金拾九圓也
累計金六拾四圓五拾錢也
總累計金參百貳拾參五拾錢也
故權筆九氏弔慰金第三回
金貳圓也 依田寛之助
金壹圓也 渡部 齊
右合計金參圓也

那製絲株式會社
よりの禮狀
謹啓 當會社前取締役社長故遺藤三郎兵衛殿逝去に際しては早速御町重なる御形慰を賜り御厚情の段誠に難有奉深謝候乍畧儀茲に謹而御厚禮申上候 頓首
昭和十一年六月六日
千曲會御中 那製絲株式會社

京都市綾部町
那製絲株式會社
前東京高等蠶絲學校長
御遺族よりの禮狀
肅啓 父岩次郎永眠の際には御鄭重なる御弔を辱ふし御厚情難有奉深謝候本日七七忌法要相替り供養のため東京市養育院、東京市託兒院並に西ヶ原同窓會に若干金員を寄附し追善の意を表すること致し候間御承被成下度候先は忌明に際し乍略儀以書中御厚情拜謝旁右御挨拶申上度如斯に御座候 敬具
昭和十一年六月十七日
千曲會御中 本多 正雄

故高山裕氏御遺族
よりの禮狀
拜復 此の度は厚き御配慮誠にありがたう御座いました。本日弔慰金到着いたしました。早速靈前に供へつゝ皆々様の御懇情を身に泌みて喜しく存じました。厚く御禮申上げる次第で御座います。先は一筆御禮迄に申添へました。
千曲會御中 高山 より子

那製絲前社長
御遺族よりの禮狀
肅啓 梅雨の候益々御清祥之段奉賀候陳者先般父三郎兵衛永眠の節は御懇篤なる御弔を蒙り致し御厚情難有奉深謝候御蔭を以て此處無滞忌明相替候に就ては拜趨の上親しく御禮申上るの處乍略儀以書中御挨拶申上度候如斯御座候 拜具追而忌明の印として御返禮可仕管の處乍勝手故人生前の關係先公共諸團體に寄附し供養と致候間何卒御承被成下度候
昭和十一年六月三十日
京都市河原町那志賀郷村
千曲會御中 遠藤 謙輔

會員動靜 (七月五日現在)

- 坂田 正贊(蠶八) (勤)滿洲國奉天、省立奉天農科高級中學校
- 後藤 仙彌(蠶九) (勤)朝鮮平安南道順川府、平安南道原蠶種製造所(勤務先所在地變更)
- 宮澤 勇(蠶一三) (勤)從前通り(住)東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷二ノ一二九八
- 池内 眞吾(蠶一九) (勤)從前通り(住)埴科郡屋代町、唐木田藤三郎方
- 千村 敏三(蠶一九) (勤)市川下改姓
- 杉浦 卓三(蠶二〇) (自營)愛知縣碧海郡刈谷町下町一九、杉浦蠶種製造場、電話刈谷五五
- 羽吉 日正雄(蠶二二) (勤)朝鮮平安北道寧邊郡寧邊面、平安北道蠶業取締所寧邊支所
- 吉池 權五郎(蠶二三) (勤)上田市、長野縣蠶業取締所上田支所
- 中村 壽一郎(蠶二三) (住)小縣郡依田村生田三八七六
- 川中 貞次(蠶二三) (勤)福岡市外箱崎、福岡縣蠶業取締所
- 手塚 秀太郎(蠶二五) (勤)兵庫縣蠶業試驗場姫路桑園
- 味澤 泰造(蠶二五) (住)兵庫縣飾磨郡飾磨町清水八四
- 石塚 浪之助(蠶二七) (勤)群馬縣群馬郡室田町、碓氷社室田製絲工場
- 大谷 勇(蠶二九) (住)高崎市並坂町一四一
- 新庄 哲二郎(蠶三〇) (勤)東京市京橋區西八丁堀三丁目七番地ノ一三、日本製絲業研究會、生絲ノ國社營業所、生絲ノ國社印刷部、電話東京橋(〇)一二四八
- 合田 信一(蠶三一) (住)埼玉縣大宮町高鼻、電話大宮五六
- 稻田 實(蠶三二) (勤)下伊那郡下條村、天龍社河南工場
- 半田 辰猪(蠶三三) (勤)更級郡更級村、更級郵便局
- 瀧澤 啓四郎(蠶三七) (勤)東京市京橋區京橋三丁目片倉ビル、片倉製絲紡績株式會社(住)東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷三ノ二四一四
- 宮島 靜三(蠶三八) (勤)從前通り(住)横浜市伊勢町縣廳官舎九二番
- 小關 悅郎(蠶三九) (住)北佐久郡小諸町紺屋町
- 林 清市(蠶一九) (勤)新潟縣村上郡、片倉製絲株式會社
- 林 宇一(蠶一九) (勤)新潟縣村上郡、片倉製絲株式會社
- 白井 美明(蠶二〇) (勤)新潟縣村上郡、片倉製絲株式會社
- 武者 忠彦(蠶二二) (勤)北佐久郡小諸町、長野縣蠶業所小諸支所
- 碓水 茂(蠶三三) (勤)東京市麹町區有樂町一ノ七蠶絲會館内、保證責任全國乾繭販賣購買組合聯合會、電丸之内(二三)一七二六
- 木田 圭吉(蠶三六) (勤)大阪府東區高野下開町、鐘淵紡績株式會社京都支店
- 山下 昂(蠶三八) (勤)京都市左京區高野下開町、鐘淵紡績株式會社京都支店
- 山本 七郎(蠶三四) (勤)名古屋野砲兵第三聯隊第五中隊
- 野尻 巴(蠶三四) (勤)豊橋歩兵第十八聯隊第一機關銃中隊
- 藤松 利八(蠶三五) (勤)從前通り(住)東京市本所區業平橋三丁目六ノ一
- 掛川 しづ(蠶三四) (勤)福島市太田町、昭榮製絲福島工場(訂正)
- 三部 戸 満(蠶三四) (勤)ナシ(住)上田市常入町
- 小林 つね(蠶三四) (勤)ナシ(住)神戸市兵庫區港町一ノ四七三

署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 原田 親雄	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 佐藤 利一	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 遠藤 保太郎	諸君の健康と活躍を祈る 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 石倉 新十郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 和田 仙太郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 井上 柳梧	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 針塚 長太郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 岡 德治郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 佐藤 春太郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 古谷 榮藏	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 金子 英雄	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 清水 寛孝	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 谷 弘	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 目崎 三郎	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 廣川 正治	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林 清丸	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 志田 敬夫	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 内藤 榮吉	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 依田 啓藏	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 都筑 貞吉	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 和田 主計	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 清水 運策	署中 御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 春原 良太郎
--	--	---	--	---	--	---	--	---	--	--	--	--------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 倉澤恒夫	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 濱村一彦	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 町田博	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 手塚達郎	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小林敏	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 坂口育三	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 關博夫	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 林貞三
暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 窪田潤	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 萩原清治	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 萱野恒	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 松浦彰義	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 片岡金一	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 野口新太郎	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 小松忠一郎	暑中御見舞 昭和十一年盛夏 上田蠶絲專門學校 櫻井隆夫

編輯室より

△暑中御見舞申上げます。時報に對して毎々格別の御高配を賜りまして有難う御座いました。今後何かと御援助御鞭撻を賜り御寄稿御廣告等としく下さる事をお願ひ致します。

昭和十一年盛夏

千曲時報編輯部

香山清和
 應野誠一
 平尾孝平
 細川豊

△丁度梅雨の時期に日照りが続き真夏の様な暑さだったので今年はからつゆで終るのかと思つたら今頃になつて毎日雨が降り續いて涼しくなつて來た。そのせいか今年の暑中見舞募集は申込者が少なかつた。編輯室は豫算大見込違ひで背息吐息の有様である。然してこの涼しきにも拘らず御申込下さつた諸氏に本欄を通じて厚く御禮を申上げる次第である。

暑中御見舞

昭和十一年盛夏

上田蠶絲專門學校

宮下丈夫

暑中御見舞

昭和十一年盛夏

上田蠶絲專門學校

高橋眞澄

暑中御見舞

昭和十一年盛夏

上田蠶絲專門學校

湯原淳

暑中御見舞

昭和十一年盛夏

上田蠶絲專門學校

小林尙一

△馬場氏の「水野支會長を送るの記」も丹綾生氏の「信濃路に於ける最後の遺蹟」も原稿紙の一行の字数が多過ぎた。今後一行十八字に書かれん事を望む。△今月號から日東製絲、温電の廣告が姿を消した。之は非常な収入減を齎すものである。編輯室の勝手元は非常な淋しさを感ずる。それで會員諸氏にお願ひがある。會員諸氏自身に於て利用せらるゝ事と最寄の商店、工場等の廣告御世話下さらん事をお願ひする。會員諸氏に未着があれば必ず云ふて來る状態であるから關心も相當大きいらしい。その上發行部数が二千部にも達するとすれば廣告價値は決して少くないと思ふから。

投稿規定

一、内容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部來月廻しとなる事がある。

一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。

一、締切は毎月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日限とする。

一、原稿は開封し二錢切手(第四種百十瓦迄)を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等にて通知されるが得策である。

一、必ず原稿紙を使用し明瞭にお書き下さい。又句讀點を必ず施して一字分の間隔を置いて下さい。

一、匿名で掲載希望の場合も編輯部文へは姓名をお明し下さい。然らざる時は遺憾乍ら掲載を見合せる場合があります。

一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸以内とし必ず白紙に墨書して下さい。原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八字文書込まれ度い。

廣告規定

寸法	期間	一月	六月	一年
一頁		三〇〇	六〇〇	一、一〇〇
1/2 頁		一五〇	三〇〇	五五〇
1/4 頁		七五	一五〇	二七五
1/8 頁		三七	七五	一三七
1/16 頁		一八	三七	六八
1/25 頁		一〇	二〇	三〇

但し本會員は七掛とす。

上田市海野町
 河合器藥品舖
 電話二一七番
 振替長野七八四番

昭和十一年度製造原蠶種

國蠶日 八號 國蠶歐十九號
 佛純 白 蘭 分離白 一號
 國蠶歐十六號 國蠶支十六號
 國蠶支十七號 龍 華 仙
 國蠶日一一號 國蠶支一〇七號
 國蠶支一〇六號 浙 江

普通蠶種

秋
 ×國蠶日二二號 ×分離白一號
 ×國蠶支二〇七號 ×國蠶支二〇七號
 春
 ×國蠶歐十九號 ×國蠶日八號
 ×國蠶支十七號 ×國蠶支十七號
 白 ×國蠶支十七號
 ×分離白一號
 ×國蠶支十七號
 黃 ×國蠶歐十六號 ×國蠶歐十六號
 ×國蠶支十六號 ×國蠶支一〇七號

蠶種業 小川保

振替(廣島)二四六番
 (大阪)三七七番

廣島縣御調郡奥村校目八兵